

竜巻、津波被災者が体験談

中央区でBCPセミナー

LPガス販売のエネジンは14日、企業の防災担当者向けにBCP（事業継続計



昨年9月の竜巻で店舗が被災した状況を説明する杏林堂薬局の担当者＝浜松市中央区のエネジ

画）セミナーを浜松市中央区の同社本社で開いた。昨年発生した竜巻で吉田町内の店舗が被災した杏林堂薬局（同区）の担当者や、東日本大震災の津波が襲った仙台市立荒浜小の元校長らが、実体験を交えて必要な防災への心構えを語った。

杏林堂薬局の前嶋克幸店舗開発本部長は昨年9月、竜巻で被災した吉田店の当時の状況を「建物の損壊以上に、空調設備などの破損が営業停止に直結すると再認識した」と明かした。停電した同店には非常用ガス発電設備があったことか

ら、「通信や薬の品質保持に必要な機器に電気を使った。優先順位を事前に決めることが重要」と訴えた。

2011年の東日本大震災当時、荒浜小校長だった川村孝男さんは、児童と地域住民320人が校舎4階や屋上に避難して助かったとし、「学校と地域が連携して津波避難訓練をしていた。一定程度被害が減らせた」と強調した。「教職員の3分の1が、家や車を失うなどして出勤できなくなった。訓練では想定できない面も多かった」と振り返った。LPガス販売の「エネサンス東北」（仙台市）の亀田豊明地域共創推進課長もガス供給の観点から、災害対策を紹介した。

（浜松総局・尾藤旭）